



生まれ変わる「ふれあい牧場」——町、改革に乗り出す

この夏、町営ふれあい牧場には7000人近くの観光客が訪れました。例年になく晴天がづついたので、展望台からの眺めも堪能できたことでしょう。下界と比べて気温が2℃以上低い富士山中腹は夏の涼を求める場所としても最適です。見事な景観があり、しかも動物がいるこの場所は、島の観光スポットとして今後もっと注目されていくはず。そんな住民の声に応じて町は牧場の整備に向けて動きだしました。

「牧場の会」の役割 チーム「牧場の会」は、3月議会で私が「ふれあい牧場を観光牧場として再整備を」と提言したことに対して、町が応えてつくった諮問機関です。メンバーは、観光協会長、観光協会事務局長、観光協会理事、町の獣医、岩崎由美議員、奥山幸子の6人です。会長は私が務めています。

会の目的は、ふれあい牧場を多角的に利用し、島の観光と町の酪農・畜産業の振興を進めることです。その活動は、様々な利用の具体案を町に提言し、町と協力態勢をとりながら施策の実現に取り組むことです。

「ふれあい」の実現は これまで黒毛和牛だけだった牧場に、8月からジャージー種やホルスタイン種も混じるようになりました。展望台へつづく道の脇には牛に餌を与える場所もつくり、観光客が休憩舎の脇に置かれた木の枝や草を食べさせる風景が見られました。まだ季節限定の試みでしたが、牛とのふれあいを通して観光客に喜ばれるおもてなしを提供できたと思います。先月訪ねたら、数頭の牛がうまれていて愛らしい姿が見られました。それぞれの牛に名前がつけられていたのもほほえましく、一層親しみがもてました。



新しくなる休憩舎の展示 休憩舎には、世界一の乳量を誇った牛の写真や当時の島の素朴な酪農の様子がパネル展示されています。しかし、傷みが進んでいて修理の必要があるので、「牧場の会」は予算要求し議会の承認を得て、展示パネルが改修されることになりました。晴れたときの展望写真や牛の出産の様子や牛乳が作られる工程などのパネルが新たに展示される予定です（今、仮の展示が行なわれています）。

夏の間は、観光協会がソフトクリームやアイスクリームを販売し、好評でした。将来、この牧場の牛乳からできる乳製品を周年販売できたらいいと思います。

八丈富士全体をアピール 会の共通の認識は、「ふれあい牧場だけでなく、八丈富士全体を観光資源として見直し整備していこう」というものです。



「牛に人を乗せたり、引かせたりする観光」「ヤギなども飼育し、ふれあいの場を提供する」「斜面をいかしたグラススキー場の整備」「雨や霧で視界が悪いときにも、ある程度の眺望が確保できるように低い地点に展望ポイントをつくる」「八丈富士山頂のお鉢めぐりの道を点検補修する」「登り下りしにくいと言われる登山道の修理」「道路状態の良い永郷側にマウンテンバイクによるダウンヒルコースを整備する」などを考えています。今は水道も電気もきていない牧場ですが、今後は、浄水施設と風力発電が整備されるよう、会として強く要望していきます。

(2) さちこのニュースレターNo.32 / 2010.11 発行

企業会計の決算審議から

企業会計は毎年赤字であり、それゆえに企業として経営改革が必要であることを議会は毎回訴えてきました。今回は9月定例議会で明らかになった病院会計の問題を取り上げてみます。

1. 病院の事務室に保管されていた現金がなくなっていた その額320万円。企業会計決算審査意見書に現金の不足が記載されていたことで明らかになりました。緊急ヘリに乗る医師への報酬や自販機の売上げや入院預かり金などを事務室の金庫に入れていたということでした。カギは4人の町職員が管理していましたが、毎日のように現金の出し入れがあったにもかかわらず、現金出納帳をつけていませんでした。

議員からは、「この事態をどう考え、責任はどうとるのか」（土屋）。「1月に不足がわかっていたのに、なぜ警察に届けたのが5月になったのか」（睦男）。「普通の会社ではありえないこと、毎日の出納を締めていないとは考えられないことだ」（博文）。「これが犯罪だったとしたら町が助長したことになる」（六郎）。など町のずさんな管理を指摘する厳しい声が相次ぎました。町は、不足分の補てんは、事件が解決すれば弁済を求め、それが出来なければ監督責任者として別に補てんする方法を考えると答えました。

2. 看護師の超過勤務手当が不払い 私は、この手当が支払われていなかったことを指摘し、不払い期間、全額でいくらになるか、再発防止策などについて町に質問しました。町は、時効が2年であることから2年遡って支払ったこと、金額は21名分、損害金5%も含めて81万円であると答えました。再発防止策については、チェックする人数を増やして対応するとのことでしたが、ここでも、病院の管理体制の不備が露呈しました。今後の対応については厳しく監視していかなくてはなりません。



9月議会の議論から

汚泥再生処理協議会 Q:幸子 協議会は今、機能しているのか。公募の協議会委員は決まったか。
A:町 月に一度程度開く予定でいる。委員の公募枠2名は新しい人が応募しなかったので、3月までは従来の2名にお願いしている。

ふれあいの湯のシャワー Q:長戸路 浴室のカラン(シャワー)が少ないので増設すべきだ。
A:町 要望はこれまでも出ているので、スペースは少ないが、なんとか2つ増やすよう計画するつもりだ。

乙千代が浜のプールは町が修理を Q:博文 檜立ての自治会が運営しているが、一般の利用者が多い。傷んでいるところもあるので危険防止のために町が修理すべきだと思う。
A:町 きちんと対応したい。

海の家の再開を Q:山口 今年は観光協会の運営する「海の家」がなかった。多くの人利用していたもので、再開してほしい。
A:町 今年は人事の改選もあり間に合わなかった。協会は、来年の再開を予定しているとのことだ。

わかりにくい介護保険認定 Q:六郎 介護保険の認定がわかりにくい。極端にかわる場合があって住民に不満がある。
A:町 わかりやすく説明するように努める。



2010年9月議会 一般質問

http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/



1. 養護老人ホームの今後をどのように考えるか

八丈も高齢者福祉については、認知、独居、療養病床など多くの問題を抱えている。養護老人ホームの老朽化もそのひとつで、財政面から建て替えは困難な状況にあるが、町が誘致を検討している老人保健施設は、こうした現状を解決する施設となりうるのかは疑問だ。町は今、高齢者福祉政策の方針を住民に示すべきだと思う。

(1) 高齢者福祉政策の中で養護老人ホームをどう位置づけているか。

(2) 今後、養護老人ホームに代わる施設をどのように考えているか。

健康課長 建て替えをしないとは聞いていないが、対象となる方の救済は行政が行うべきと認識している。自立が原則とされる養護老人ホームには、食事や排泄に支援を必要とする要支援、要介護の特養待機者が半数程度入っている。待機者を精査し適切な振り分けをしていく。町の方針はまだ出ていない。

幸子 まず現状を把握すべき。養護と特養の待機者を精査し、対象者をしぼり、柔軟に振り分けるか、きめ細かい作業が必要。八丈、大草の増設は可能か、規模はどの程度が適切かなど、ひとつひとつ現状を踏まえたうえで話せる作業が必要だ。テーマを絞り込んだ話し合いの場をつくることを提案するが町はどう考えるか。

健康課長 現状をできるだけ把握しつつ、現在振り分け作業を行っている。月1回養和会と話し合いをもっているため、その場に関係者を交えて会議を開くことはできる。

2. 町のバス事業の方針を問う

厳しい経営状態にあるバス事業については、定期観光バスを廃止するなど経営を改善するための対策が出されたが、21年度決算を見ると一般会計からの補助金が過去最大の7800万円までふくらんでいる。町は、住民が納得する抜本的な改革案を示すべきだ。

(1) 特別委員会の提言をどう評価しているか。

(2) 今後のバス事業について具体的な改善策はあるか。

企業管理者 経費削減策については、一定の評価はしている。方向性は出ているが、具体策については財政状況を見ながら考えていく。

幸子 人口減少が進みバス利用者も減少傾向にある一方で、高齢化が進めば住民の足としての重要性も浮かび上がってくる。日常生活に欠かせない交通手段である以上、補助金を出してでも存続させる必要があるが、その場合でも、特別委員会の提言が実現性のある提言を尊重し、あらゆる無駄をなくしていくべきで、町が否定している企業管理者制度の廃止も考えてほしい。また、今後の経営については、タクシー、レンタカー業者と話し合い、モデル事業の展開を始めるよう提案する。

企業管理者 民間との話し合いは検討したい。自由に乗り降りできるシステムや要望で運行するデマンド式などのモデル事業は、様々な規制があり、簡単にはできないが、小型バスの運行については早急に対応していきたい。

(4) さちこのニュースレターNo.32 / 2010.11 発行

3期目の抱負・・・初心を忘れず、一歩ずつ

激しかった今回の町議選。現職2人が落選するという結果でした。5人の新人は年齢・経歴も様々。その多様なゆえに議会に新しい風を吹き込んでくれるものと期待しています。政権政党の民主党議員も加わり、八丈町議会には、自民党、公明党、民主党、共産党と4つの政党議員がそろいました。

私はこれまでどおり無所属、無党派ですが、今回は厳しいと覚悟して臨んだ選挙でした。皆さんの暖かいご支援のおかげで当選することができ、感謝するばかりです。私を議会に送って下さった皆様の声を力にこれからの4年間よりよい町づくりのため力を尽くしていきたいと思っています。

常任委員会は、総務文教委員会（総文）と経済企業委員会（経済）に7人ずつに分かれます。私は総文に入り、今回委員長をつとめます。教育、文化、廃棄物、福祉、保健医療などの分野を担当する委員会ですが、どれも町の将来にとって重要な課題が含まれていますので、意欲的に取り組んでいきます。議員は議論してこそ存在意義があります。必要に応じて常任委員会を開き、テーマを決めて十分議論を尽くし、現場の声や専門家の見解を尊重しながら、住民が納得する方向性を見出したいと考えています。

ぶれいくたいむ・・・観光のひとつのありかた

最近、フラダリンググループの交流イベントやサッカーや野球の交流試合のように目的がはっきりする来島者が増えていきます。

文化交流で注目されるのが、首都大学東京の取り組みです。東京都全体をキャンパスとらえ、各地域と連携しながら学外体験をする都市教養プログラム「自然と社会と文化」では、9月には八丈島が学生の授業の教室になりました。このほか、東京都の魅力を紹介する体験ツアーを企画し広く一般から募集してきました。八丈でもすでに4回行なわれ、トレッキング、ビーチコーミングや自然体験、史跡めぐりなどを行ないました（1回約20人）。

11月8日に長野県木島平村の村議会議員一行12人が来島し、議員と懇談する機会がありました。前八丈支庁長との縁の来島だそうで、なには4回目という方もいました。来年は島の小学生50人がスキー教室で村を訪れることになりました。また、12日には大東島の25人の生徒が来島し、太鼓などの交流をしました。山梨の子どものキャンプも、自治体同士の交流として続いています。

様々な団体や自治体同士のつながりや縁で、目的をもって来島し、それをきっかけに島の観光を楽しむというパターンが、これから定着しそうです。まとまった人数が来ること、繰り返し来ること、そして何より、うわべだけでなく八丈を深く知ることでファンが増えていくことが最大のメリットだと思います。



編集後記

選挙中、島をくまなく走って気づいたのが、家々の庭の手入れが行き届いていることでした。高温多湿の八丈では、たくましく伸びる草との戦いが続きます。なのに、一人暮らしのお年寄りの家でもきちんと除草されていました。コツをきいたら「小さいうちに取ること」だそうです。教育や医療にも通じる深い教訓ですね。納得！

さちこのニュースレター
第三号 / 2010年11月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子